

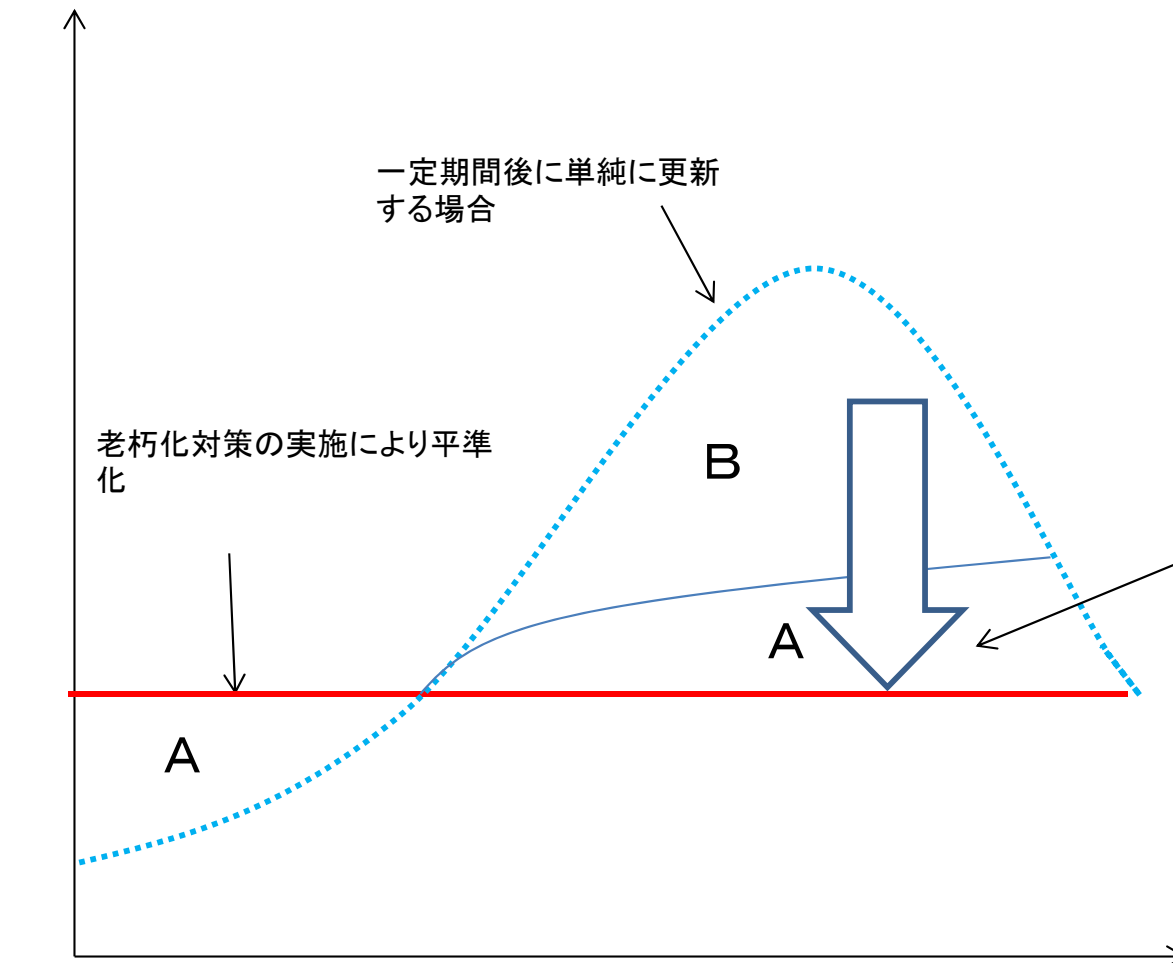
これからの公共事業論

国土交通大臣
太田昭宏

老朽化対策による中長期的なコスト縮減

○ 予防保全、長寿命化等の老朽化対策を実施することにより、一定期間後に単純にインフラを更新する場合に比べ、当初は老朽化対策の費用が上乗せで必要(=A)なものの、中長期的なトータルコストを縮減(=B)させ、負担を前倒し、平準化することが可能と想定される。

コスト 老朽化対策によるコスト縮減・平準化イメージ



- 老朽化対策への支援の充実
- 適切な老朽化対策を実施していない場合の更新補助の厳格化

防災・メンテナンスによるイノベーション

これまでのイノベーション

アメリカを中心にした軍事によるイノベーション（インターネット、GPSなど）



これからのイノベーション

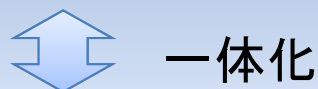
防災・メンテナンスによるイノベーション（高精度な衛星測位、自動運行、情報化施工など）

新たな産業、民間ビジネス等への展開

- ・自動車、農耕機等の自動運転
- ・観光地でのきめ細かなナビ
- ・航空機等のナビの高度化
- ・小型EVを利用したコンパクトシティ
- ・三次元データと金融との融合による新たな不動産ビジネス

メンテナンスへの活用

- ・高精度な衛星測位の活用によるインフラの維持管理の効率化、情報化施工、ロボット施工の推進 → 災害時にも活用



首都直下地震、南海トラフ地震等巨大災害対応

- ・三次元電子国土地図データを活用した迅速な災害救助活動

次世代インフラマネジメントシステム

異次元の防災対策

マンマシンインターフェイス(MC技術、MG技術)

三次元電子国土地図データ

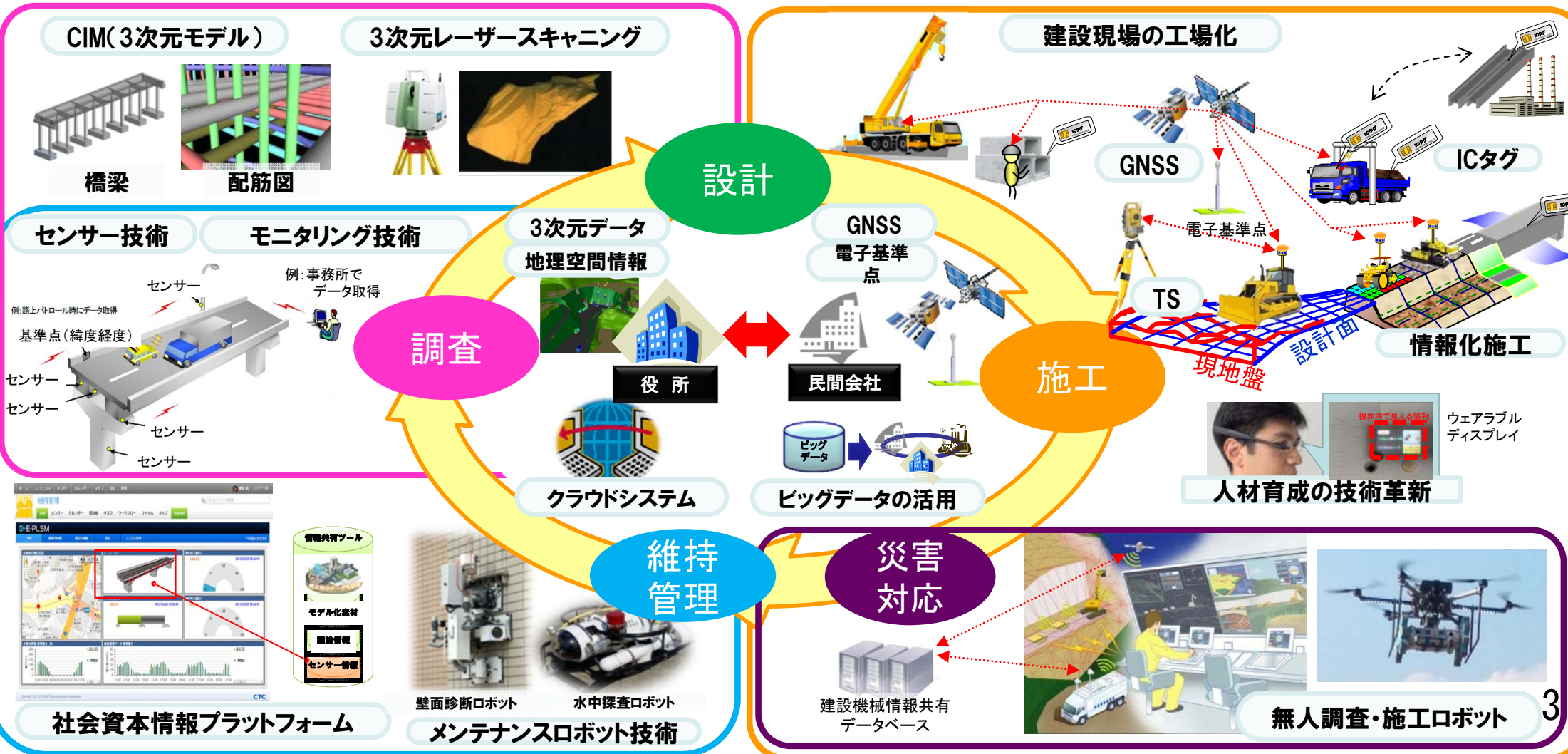
衛星測位の高精度化

- ・準天頂衛星等の活用
- ・電子基準点：全国1,240地点

次世代インフラマネジメントシステムの構築

次世代技術を活用したインフラマネジメントシステムの導入・推進によるイノベーション

社会インフラのライフサイクル全般(調査、設計、施工、維持管理)に渡って3次元データの蓄積・管理を推進し、これらデータを基盤として、センサーやロボットなどのデバイス技術、非破壊検査技術や測位・観測技術、データ活用技術などとの有機的なつながり、密な連携活用を進め、併せて技術革新を促すことにより、コスト縮減、インフラの維持管理の高度化等を図り、効率化・最適化され、安全・安心への信頼性が高く、さらに迅速な災害対応も可能な次世代インフラマネジメントシステムの構築を推進する。



風格と美しさ(デザイン)を備えた、魅力ある水辺空間の創出

風格と美しさ(デザイン)を備えた魅力ある水辺空間をまちづくりと一体となって創出するため、民間活力(投資、知恵、ノウハウ)を積極的に引き出すための規制緩和等を推進。

我が国の河川の現状



建物が河川から背を向けている



水辺を遠ざけている直立護岸



河畔整備されても賑わいがない

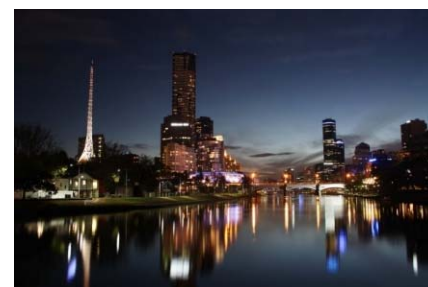
隅田川などの代表的な河川で実施



水辺を「**つくる**」だけではなく
「**育てる**」ための3つのコンセプト

- ① 水辺空間の賢い利用
- ② 積極的な民間投資の誘導
- ③ 市民や企業を巻き込むソーシャルデザイン

目指すべき河川のイメージ



統一感のある水辺の景観



風格のある水辺



居心地の良い水辺空間



街並みにふさわしい水辺利用



エリアでのマネジメント



水辺における商業利用

○堤防の耐震対策にあわせて、新燃岳の火山灰を活用したレンガによる散策路を整備。景観にも配慮。



大淀河畔施工例



インフラデザインの適用例(港湾施設の更新に併せた機能向上事例)

港湾施設の更新にあわせ、景観、デザイン、観光等の観点にも配慮した整備を行い、まちの活性化に寄与。

○横浜港の例

- 大さん橋は明治27年に供用を開始し、日本の玄関口として国内外の多くの旅客船が利用。
- 老朽化が著しく進行したため、昭和63年から再整備を行い、平成24年度に再供用を開始。旅客船の安定的な就航に対応するとともに、さん橋上を緑地化し、観光スポットとしても活況を呈している。



昭和42年頃

現状

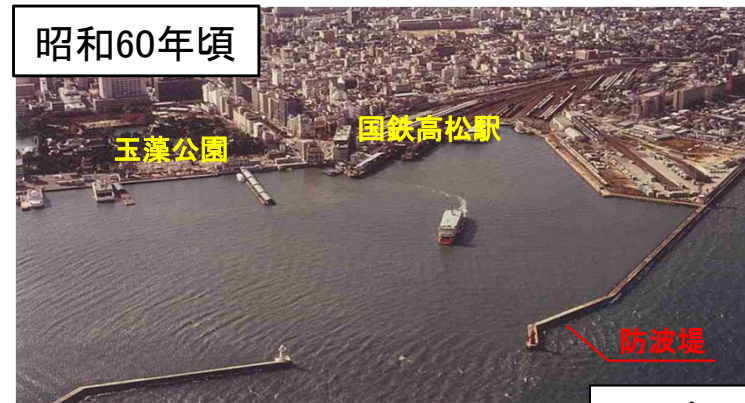
大さん橋国際客船ターミナル寄港回数
:142回(H24)※国内第1位



イギリス在住の建築家、アレハンドロ・ザエラ・ポロ(スペイン人)とファッシド・ムサヴィ(イラン人)両氏による設計デザイン

○高松港の例

- 昭和30年代後半に整備した港湾施設について、昭和63年の瀬戸大橋開通に伴う宇高連絡船の廃止を契機として、港湾施設の再編整備を実施。
- 瀬戸内海の島々を望む景観や親水性に配慮した防波堤などの港湾施設は、市民の散策の場や憩いの場として親しまれている。



昭和60年頃

現状

サンポート高松利用者数(フェリー含む)
:約260万人(H24)



首都高速再生に関する具体的な検討について

【総理発言(5月7日)】

○ PPPを活用した高速道路の大規模改修方策について検討を進めていただきたい。

【民間議員の指摘】

○ 高速道路(特に大改修が必要な首都高)へのPPP/PFIの導入検討

○ 首都高速道路の老朽化対策については、民間都市開発と一体的に行うなどPPPの活用により都市と高速道路の一体的な再生を推進。

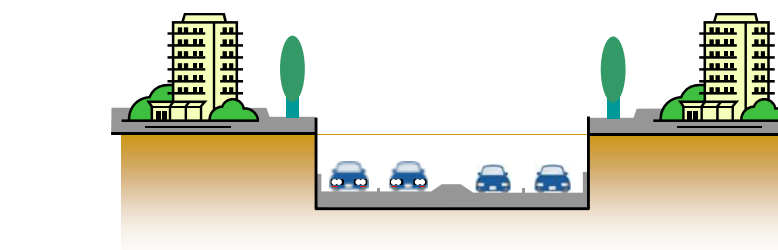
○ 都市再生プロジェクトと連携した首都高速の再生を進めるため、東京都等関係機関と連携した検討会を設置し、築地川区間等をモデルケースとして検討を進める。

都心環状線の周辺

虎ノ門ヒルズ

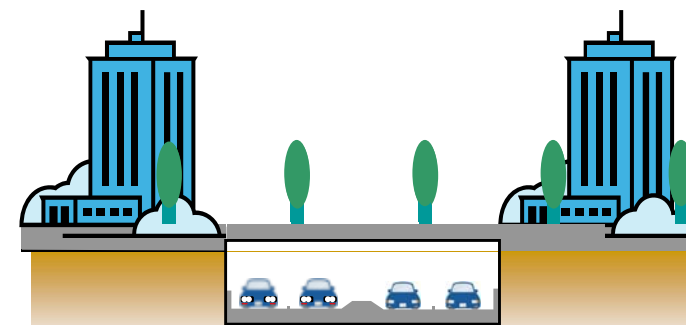


新金橋付近



※高速道路機構が土地の所有権を有している掘割区間

(上部空間の高度利用イメージ)



※現況の首都高速都心環状線の土地利用状況から想定されるケース